学校体育における社会性の育成に関する一考察
A study of nurturing sociality in physical education

1K06B167　　梨本　雄太
指導教員　主査　友添秀則先生　　副査　吉永武史先生

【本研究の動機】

日本の学校教育では、さまざまなスポーツが体育の授業のみならず課外活動としても行われている。それらスポーツに対する生徒たちの取り組み方は多種多様であり、学校というコミュニティにおいて運動やスポーツといった文化はもはや切り離すことのできない存在となっている。それらのような運動・スポーツは多くの子どもたちにとって、生涯に渡って豊かな生活を営んでいく上での重要な要素となる性質を持っている。スポーツという文化にそのような期待感を抱く一方、今日の学校教育の現場ではさまざまな問題が生じている。例えば「いじめ」という問題行為に関して、近年は目立った増加が見られないと文科省は報告しているが、報復を恐れるあまり誰にも相談できないなどのような子どもの存在があるのは明らかである。その他にも暴力行為や不登校、ニート（Not Currently Engaged in Employment, Education or Training）の若年層化などといった教育現場を取り巻く問題は多数存在している。これらのような問題行動を起こしてしまう子どもは、学校や家族など周囲の環境に対して何らかの不満や恐怖心を感じているのかもしれない。そのような子どもが増えつつある昨今において、学校教育の中でも特異な性質を持つ体育科が彼らに対してどのような影響を与えうるのかということに着目した。学校体育が子どもたちに対して教育上どのような役割を果たしているのか、また果たしていくことが出来るのかと考えたことが、本研究の動機となっている。

【本研究の目的と概要】

社会性の育成という観点から学校体育に着目し、学校体育が子どもたちに与える教育的価値と意義について明らかにし、教育現場に生じるさまざまな問題点解決の糸口を考察することを目的とする。方法として国内における学校体育に関する文献から情報を収集し、主に友添や高橋による研究・考察を参考とする。

【各章の概要】

＜第１章＞

学校体育の歴史的変遷について考察した。考察範囲を明治５年の「学制」公布から現代までとし、特に指導方針の改訂期に着目して、当時の社会的背景や教育現場の状況を踏まえて論じた。戦前から戦時下に関しては今村や井上の文献を、「新体育」期から「体力づくりを重視した体育」期は丹下や竹之下の研究を、それ以降は友添や高橋らの学説を参考として、各年代における学校体育の目標と状況、また社会性の育成について考察した。

＜第２章＞

学校体育における子どもたちの社会性の育成に関して、社会性を①規範性、②平等性、③主体性という３点に分類してそれぞれについて考察した。規範性は主にルールやマナーといった観点から、平等性はジェンダーという観点から、主体性は「自ら学ぶ力」という観点から、それぞれを専門分野とする研究者の文献を参考として筆者自身の見解を述べている。

＜第３章＞

　現代における学校教育の問題点について、また教育方針の転換に見る学校体育の将来性に関して考察した。学校教育の現状については関連する新聞記事を例として取り上げ、それらを参考に現代における課題を抽出した。

＜結章＞

　本研究の最終的なまとめと、今後の社会性育成に向けた学校体育のあり方について問題点と課題を述べた。